

# 原子力防災体制を確認

## ～平成25年度青森県原子力防災訓練実施～

11月23日、青森県・関係市町村等の共催により、東北電力東通原子力発電所1号機を対象に、原子力防災体制の確立、防災関係機関の緊急時対応能力の向上を図ることを目的として、65機関、約1000名が参加し、原子力防災訓練が実施されました。

当村では、地震・津波による大規模災害と原子力災害の複合災害を想定。東通村防災センター内に村災害対策本部を設置し、各種の対策を検討・決定する訓練を実施しました。また、原子力規制庁、三村申吾県知事、越善靖夫村長を始めとした関係市町村長等が出席するTV会議や、青森県災害対策本部との通信連絡など、各種対策の検討や情報の共有化などを行いました。

一方、東通原子力発電所から30km圏内のむつ市、横浜町、野辺地町、六ヶ所村でも住民避難訓練が行われ、当村では、「陸路避難訓練」と「海路避難訓練」の2つの訓練を実施しました。

「陸路避難訓練」では、発電所から5km～10kmの範囲（田代、砂子又、里地区）を対象に、約20名がバスにより、青森市（青森県総合学校教育センター）まで避難しました。避難先では、県などの関係機関が主体となって、体の表面に放射性物質が付着していないか確認する汚染検査などが行われました。なお、むつ市、横浜町、六ヶ所村の住民も同施設への避難訓練を実施しています。

「海路避難訓練」では、発電所から5kmの範囲（小田野沢、老部、白糠地区）を対象に、約50名がむつ市大平岸壁へ移動し、汚染検査を行い、海上自衛隊の船により避難しました。

また、災害時要援護者避難・搬送訓練として「老人介護保健施設のはなしようぶ」を対象に介護が必要な方（職員が模擬）の避難訓練を実施し、施設からの搬送手順を確認しました。

この他にも、防災関係機関等が様々な項目の訓練を実施し、原子力災害発生時の対応を確認しました。

訓練では、原子力災害が発生したときの行動等を確認しながら、参加した防災関係機関の職員はもちろん、ご参加いただいた住民の皆さんも、真剣に取り組んでいました。

なお、東北電力東通原子力発電所では、福島第一原子力

発電所の事故を踏まえた、様々な安全対策が講じられています。村では、原子力防災対策に万全を期するため、今後も定期的に訓練を実施していくととしています。

### 東通村災害対策本部設置運営訓練



村本部会議による対策の検討・決定



越善本部長(村長)が対策実施を指示



TV会議による避難指示等



本部事務局の情報収集連絡等の活動